



幻想的な印象を与えるスマスロ棟

パチスロ専門店としてオープンすることは、比較的早い段階から構想を練っていた。

「スロ専であれば、この台数規模でも併設大型店に対抗できます。スマスロを中心に、パチスロが好調トレンドにあることは追い風の一つ。福岡県内には当店と葛原店(北九州市、346台)の2軒がありますが、いずれもスロ専です」

機種ラインナップでは、地域で圧倒的な支持を受ける「ヴァルヴレイヴ」を全73台導入している。取材日当日には、同機種が出玉ランキングの上位5位までを独占。このほか人気機種「北斗の拳」を全77台取り揃えている。

スマートな店舗づくり

外観は街になじむ控えめな雰囲気ながら、店内ではLED装飾を多用した。高低差を設けた球状ライトは、データ表示器と相まって幻想的だ。

「パチスロを純粹に楽しみたい人に、空間の良さを味わってもらいたい。以前の店舗を知るお客様からは、こんなにきれいになったんだねというお声を頂きました」

ワンフロアの店内は、北側のスマスロ棟(327台)と南側のジャグ



A



C



D



E

A/「メダルパーソナル」を導入したジャグラー棟 B/簡単操作で景品交換できる「セルフPOS」 C/落ち着いた雰囲気を持つ外観 D/出玉情報はほぼリアルタイムで更新される E/カフェコーナーでは香り高いコーヒーを提供する



B

HALL REPORT

スロットまるみつ大橋店 (福岡市南区)

6年ぶりの新店はパチスロ専門店

激戦区・福岡に2店舗目をオープン

九州全域にホール20店舗を展開するひぐちグループ(長崎県)が12月5日、福岡市にパチスロ専門店「スロットまるみつ大橋店」をグランドオープンした。総台数は417台。このうち約8割がスマスロで、残るメダル機はすべてジャグラーシリーズだ。

グループ6社で構成されるひぐちグループは、飲食、ホテル、パチンコ、エンターテインメントなど、複数の事業を手掛けている。創業は1950年。パチンコ事業では長崎県内の9店舗を筆頭に、「まるみつ」の屋号で九州全域に20店舗を展開している。

新規出店は、熊本初進出を飾った浜線店(熊本市南区、1230台)以来6年ぶり。大橋店の開業直後には、鹿児島にもパチスロ専門店「霧島店PLUS」(霧島市、356台)をグランドオープンした。

西日本鉄道・大橋駅から至近距離にある大橋店の出店にあたっては、22年4月末に閉店したホールを居抜きで取得した。P・WORLDによれば、福岡市南区のホール店舗数は6軒。隣接する博多区、中央区、城南区まで範囲を広げると計29軒が所在する。

今回の出店について、廣田豊和店長は次のように話す。

「南区は人口のわりにホール軒数が少なく、隣接する区に遊技者が流出していると考えられます。特急列車も停車する大橋駅の周辺は大学・専門学校に恵まれ、若い世帯の数も多い。若年層をターゲットにした施策が刺されれば、勝機は十分にあると見ています」

設備面では、マースエンジニアリングの「セルフPOS」や「Air紙幣搬送システム」、各台計数機能付きの「メダルパーソナル」で省力化を図った。「セルフPOS」は3台中2台が無人。こうした「スマート店舗」では、遊技客との接触機会をどのように確保しているのだろうか。

「当社の方針としては、接触機会を創り出すために、有人カフェコーナーの備え付けを進めています。パチスタ技術を外部から学んだ社員が淹れたてコーヒーを提供する本格的なものですよ」

今後について廣田店長は、「福岡における知名度がまだ足りないと感じています。まずは地元商圏を固めつつ、ブランドの浸透を図る。次の新店の足掛かりになるように、当店で実績を重ねたい」と抱負を語る。

A1



廣田店長